

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平2-134385

⑬ Int. Cl.⁹

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)11月7日

F 16 L 3/12

7031-3H F 16 L 3/12

B

審査請求・未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑮ 考案の名称 線状体クランプ具

⑯ 実 願 平1-42040

⑰ 出 願 平1(1989)4月12日

⑱ 考 案 者 大 竹 克 幸 神奈川県横須賀市田浦港町無番地 関東自動車工業株式会社内

⑲ 出 願 人 関東自動車工業株式会社 神奈川県横須賀市田浦港町無番地

⑳ 代 理 人 弁理士 福留 正治

㉑ 実用新案登録請求の範囲

線状体を抱き込むように、開閉可能に中間部でヒンジされてリングを形成する両側の半リング体12、12aと、

これらの半リング体の開放端部のそれぞれにパネル穿孔9aへ表面から挿入されるように突設され、かつ前記線状体方向で互に対面して着脱自在に係合する両側の突起13、13aと、

これらの突起の先端部から、前記開放端部に向けて前記線状体方向と直交方向へ弾性を呈するように延び、かつ前記パネル穿孔の縁に前記パネル裏面から係合する段14b、14cを先端に備えたパネル係合爪14、14aと、

これらのパネル係合爪のそれぞれの先端に前記線状体方向と交差方向に突設されて、前記段に係合したパネル9に表面側から弾性的に開閉自在に

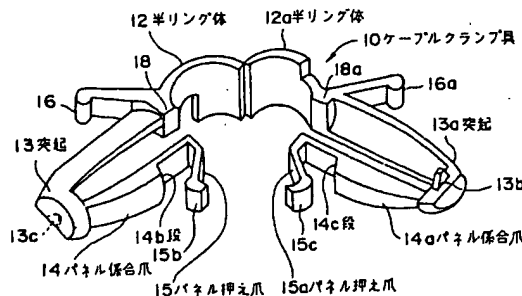
当接するパネル押え爪15、15aと、を合成樹脂から一体に形成したことを特徴とする線状体クランプ具。

図面の簡単な説明

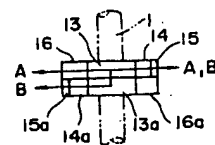
第1図は本考案の一実施例によるケーブルクランプ具の開放状態の斜視図、第2図は同実施例によるクランプ具の使用状態を示す正面図、第3図a及び第3図bは第2図のA-A線及びB-B線断面図並びに第4図は対応する従来のケーブルクランプ具の平面図及び第5図はこの従来のクランプ具の使用状態を示すケーブル方向の断面図である。

9a……パネル穿孔、12、12a……半リング体、13、13a……突起、14、14a……パネル係合爪、14b、14c……段、15、15a……パネル押え爪。

第1図



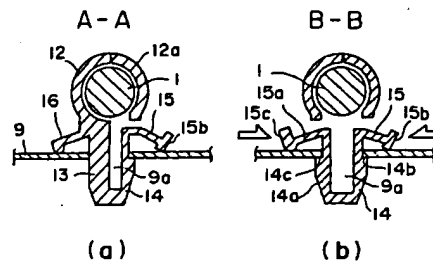
第2図



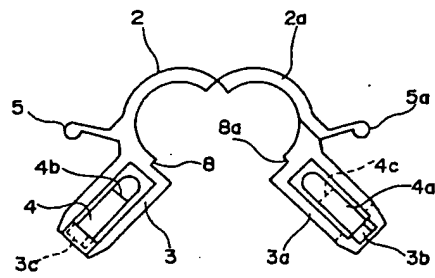
(2)

実開 平 2-134385 (2)

第 3 図



第 4 図



第 5 図

